

平成31年度第1回岡山県和牛改良委員会 議事概要

- 1 日 時 令和元年5月14日(火) 13:30～
- 2 場 所 全農岡山県本部総合家畜市場(真庭市草加部)
- 3 出席者 委員:14名 事務局:4名 その他:1名
- 4 諮問事項

(1) 委員及び役員の選任について

岡山県和牛改良委員会規約第4条第2項により会長、副会長の選出について諮ったところ、各委員からの意見はなく、事務局案を求められたため、会長に農林水産総合センター畜産研究所 馬場所長、副会長に全農岡山県本部 川崎畜産部長を提案したところ、全会一致で賛成された。

(1) 種雄牛の作出方針について

- ・作出方針については、異議なく了承された。
- ・栗木委員から、食味改良に係る改良方針について、どう考えているか質問があり、事務局から、次のとおり説明があった。

枝肉のオレイン酸を含む脂肪酸組成を測定し、データが取得できたものについて、育種価を算出しており、これを指標としていく方向であるが、現在、データ数が少ないため、作出方針のうち能力評価の要件に加えておらず、選抜時の参考情報としている。また、公益社団法人全国和牛登録協会が指摘しているように、粗サシのものは小サシのものと比較すると脂肪含量が多いため、県としても小サシを目指し改良する方向であり、現在、小サシ指数を算出している段階である。

- ・下山委員から、年々、登録点数が下降傾向にあるため、これらの雌牛を用いて作出された種雄牛を使うと、一層、点数の下降が懸念されるため、種雄牛の選抜にあたっては十分注意する必要がある、と意見があった。
- ・馬場委員から、県で実施している肉用牛広域後代検定推進事業において作出された産子の検査を、生後3ヵ月以内には各県民局が日程を調整し、実施することとしており、審査得点も考慮し、種雄牛候補として購入していきたい、と説明があった。
- ・杉山委員から、前回選抜された「美恵茂」号の産子の得点の現状について質問があり、事務局から本牛の産子の体型は、大きな欠点がない旨が説明された。
- ・下山委員から、肩の付着が悪いものが全国的にも繁殖障害になりやすいため、注意を要するとの意見があり、馬場委員から、今後、本改良委員会の開催にあたり、畜産研究所で実施することとしており、実際に候補牛を見て選抜につなげたい旨の説明があった。
- ・狩谷委員から、質量兼備の牛について、特徴がなく農家への説明もしづらいため、「この種雄牛はすごく大きくなる」「この種雄牛はよい肉質になる」など、どちらかに傾注しはっきりさせた方がよいとの意見があった。馬場委員から今後、畜産研究所における研修会で理解を深めていきたいとの説明があった。
- ・野村委員から、「美恵茂」号について、新聞やポスターにより掲載され非常に期待

しているが、県外の購買者に、よさを理解していただく必要があるため、セリ前に説明会を実施したり、購買者へ郵送による案内を行うなどのPRの仕方を工夫する必要があるのではないかとの意見があった。馬場委員から、今後、全農岡山県本部や家畜改良事業団とも協力しながらPRの仕方を検討するとの説明であった。

(2) 種雄牛の繋養計画について

繋養計画は異議なく了承された。

- ・下山委員から、今回廃用予定の2頭について、県の柱であった牛であり、特に「黒金糸藤」は全国発表して高く評価された牛だが、年間利用本数がこの程度とは情けなく、我々も反省しないといけないとの発言があった。また、「美恵茂」については、美点だけでなく、欠点も含めて農家に説明し、使ってもらう必要があるとの意見があった。
- ・狩谷委員から、そもそも「黒金糸藤」は何を目的として作出したのか、種の保存なのか、との意見があった。黒金糸藤の作出について、馬場委員から、昔の牛を利用しながら岡山の牛に戻していくよう、種牛性を加味しながら作出した旨の説明があり、黒金糸藤のような牛が使える時代が来ると思っていると今でも思っているので、皆さまもご理解くださいとの意見があった。
- ・野村委員から、これまでに本県で作出された種雄牛産子を求めて全国から購買者が集まったことがなく、よい種雄牛が作出されているのは事実なので、その精液を使い産子を作る時に県費で助成するなどのPRをしてはどうかとの意見があった。また、栗木委員から、全国和牛能力共進会でPRしても、その産子が子牛市場に出ないなどの事実となっており、戦略的にPRしたほうがよいのではないかとの意見があった。馬場委員から、県で実施する広域後代検定推進事業において受精卵を配布することとしており、事業の仕組みは完璧にできているが、担当が代わって事業が進んでいないとの説明があった。また、全国的な評価の場に、種雄牛を出していきたい旨の説明があった。

(3) 第12回全国和牛能力共進会について

- ・事務局から、第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会の6～8区に係る候補牛の作出方法、作出状況、スケジュールについて、説明があった。特に、受精卵移植により作出するにあたり、各地域の農協で肥育希望に対する受卵牛を調整する必要がある旨の説明であった。

(4) その他

- ・県庁畜産課から、毎年開催される岡山県畜産共進会肉用種牛の部繁殖牛群区について、昨年は1セットしか出品されておらず、各農協単位で出品をどう考えているか質問があった。津山農協はなんとか1セット出品する意向であったが、他農協は出品できないとの回答であった。これに対し全農岡山県本部は「当該地域内で飼

育されている成雌牛 3 頭で群を構成し、相互の血縁係数が 6 % 以上のもの」であるため、地域で出品できないことはないと説明した。このため、各農協は地域の改良組合と協議し、5月28日までに出品について全農岡山県本部と協議し、出品への考え方を県へ伝達することとなった。